

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第9回こども部会				
(2) 開催日時	平成31年2月8日（金）9：30～11：30				
(3) 開催場所	本庁舎 902 会議室				
(4) 出席した委員、事務局等	委 員 <敬称略>				
	宮崎 渉	今岡 久美子	福田 功志	志村 陽子	谷村 淳子
	stack 洋子	小野 英次郎	吉田 紀代美	小池 優子	島村 勝
	馬場 衣久美	宮嶋 祐紀子	大岩 香代子	佐藤 渉	
	区職員				
	小鳥 彰子	本多 あゆみ	新屋 敬子	大島 涼	田島 吉延
	事務局：小林 善紀、森崎 恵里、滝本 裕弥				
	欠席者：石川 智春、藤野 絵里子、野澤 景子、秋山 亮、関 香穂利				
(5) 内容・要旨	<p>1 部会長より</p> <p>2 連絡・報告事項</p> <p>(1) 各委員からの情報提供</p> <p>① 運営会議の報告</p> <p>1月16日に運営会議を行った。会議において、現行の部会体制を新たな部会体制に変更する案が出た。</p> <p>こども部会に関しても、今年度は防災に関する議題や、就労支援部会と合同部会など、他部会とリンクする内容があった。発達支援マップの活用に関しても、こども部会の枠を超えて、18歳以降の支援の内容を含めた検討が必要となる。</p> <p>また自立支援協議会で検討している課題が、区の他の会議体で検討している課題と重複しているものもある。自立支援協議会での検討が、区の関連部局にも意識を向けてもらえるような体制を整え、相互に連携を深めていく必要がある。</p> <p>これらを踏まえ、重複して検討している課題を整理しつつ、現在より広い視点、多くの視点で効果的に検討ができる体制を構築することを目的に、部会体制の変更案が出ている。</p> <p>部会体制の変更に関連して、本会委員の任期を2年とする案も出ている。</p> <p>上記の報告を受け、意見交換を行った。</p> <p>本会にて、部会体制が決まった後に、専門部会活動を補足する形で、課題に応じたワーキンググループを発足するという説明があった。ワーキンググループの数や、参加者、活動期間等について検討していかないといけないという意見が出た。</p> <p>また、どのような部会体制になるにしても、各専門部会で現在検討している課題に、空白の期間が出ないようにしなければいけないとい</p>				

う意見が出た。

② 発達障がいシンポジウムの報告

1月20日に実施し、210名の方が参加した。参加者は当事者の保護者が53名、支援機関が15名、医療機関が5名、その他関係者も多数も参加した。

③ おおたTSネットより情報提供

1月31日に拡大定例会を実施、「障害のある人も安心して暮らせる社会づくり」について取り組まれている弁護士の方をお呼びして、講演をしていただいた。

④ わくわくじょうなんだよりの情報提供

わくわくじょうなんは今年で3回目となった。年5回の活動が終わり、今年の活動報告の刊となっている。

⑤ 児童虐待について

新聞記事の情報提供があった。こども達はこのような事件をどのように捉えているのか、同じこどもに関する事件をどのように感じているのか、こども目線で考えていく必要があるという意見があがった。

⑥ 矢口特別支援学校PTAの取り組み報告

11月のこども部会で医療的ケアの情報提供を受けたこともあり、矢口特別支援学校のPTAでも医療的ケアの知る機会をもった。城南特別支援学校のPTAの方の協力を得て、PTAの運営会議に合わせて実施した。

(2) 事務局からの連絡事項

① 障がい者総合サポートセンターグランドオープンについて

グランドオープンにて新たに開始される、発達障がい児支援事業についての説明があった。発達障がいの診察・診断を行ったうえで療育につなげるプログラムを実施する方針で進めている。加えて、区内の小中学校に出向いていく「地域支援事業」も考えている。

支援を必要とする全ての児童に門戸を広げられれば良いという意見もあるが、初年度については、サポートルームを利用している児童への支援を中心に行う方針としている。放課後等デイサービスでは、年齢や診断、障がい種別ごとにグループに分けて療育を行うことを想定している。

長期的な関わりでの支援も必要であるが、多くの方に相談の機会・利用の機会を提供できるよう、利用の期限を設けた形でプログラムを提供する予定。障がい者総合サポートセンターの利用終了後は、既に地域にある放課後等デイサービス事業所と連携をしていくことを想定している。

3 今年度の振り返りと次年度に向けて

(1) 本会報告資料の確認

(2) 今年度の振り返りと次年度に向けた意見交換

それぞれの委員の立場で今年度を振り返り意見交換を行った。

【重症心身障がい児・医療的ケア児の地域生活について】

重症心身障がい児・医療的ケアのあるこどもについて取り上げられたことは良かった。数年にわたり支援整備の働きかけを行い、様々な整備がされてきたことには感謝をしている。しかし、現状は重症心身障がい児や医療的ケアなどの支援が必要なこどもはまだ沢山いる。もっと地域に知ってほしいことは沢山あると感じている。

【相談支援について】

こども部会はこども主体ではあるが、保護者の視点が入ってくることは不可欠である。そういった意味で、今年度は「こどもと家族を支える部会」となっていたと感じる。保護者への支援という視点も充実させていく必要があると考える。

制度やネットワークが充実し、相談できる場面は多くなっているが、そのような現状でも相談につながっていない方にも手を差し伸べられる地域づくりを自立支援協議会に期待している。

【児童虐待について】

児童虐待については、改めて親・家族支援の視点が必要だと感じた。子育てを行う地域の体制に問題・課題がないかということも検討していけると良い。また、保護者の立場としては、自身が加害者となるリスクを抱えている。親同士のアンテナを広げる必要があると感じている。

特別支援学校の立場でいうと、障がいのあるこどもたちが虐待を受けるリスクについてスーパーバイズを受ける機会が少ない。特に長期休みの際に家族と過ごす時間が多くなると、虐待が起こるリスクが高くなる。そういった際に地域支援とどのようにつながるかということに課題を感じている。

これらについて、現行の自立支援協議会では子ども家庭支援センター等との関わりが少ない。次年度以降で、「つながる」ことを実現していきたい。

【次年度の自立支援協議会体制について】

今年度の自立支援協議会では、つながる・わたす・ひろげるというテーマのもと、個人として多くのことを知る事ができた。しかし、自立支援協議会での話題を外に広げる機能は弱かったと感じている。自立支援協議会で取り上げている話題を、障がい福祉分野以外や地域に広げる仕組みを検討していけると良い。